

大村健二、濱田康弘 著

新・栄養塾

西岡心大（長崎リハビリテーション病院人材開発部副部長・栄養管理室長）

本書は2010年に発刊され多くのファンを生んだ『栄養塾——症例で学ぶクリニカルパール』の著者である大村健二先生が、その発展版として濱田康弘先生と共に執筆された名著である。大村先生は外科医、濱田先生は内科医で、かつ栄養サポートの第一人者であり、評者も先生方の講演や著書から多くを学ばせていただいた。

本書は「Ⅰ. 栄養管理に必要な基礎知識」「Ⅱ. 臨床栄養 実践編」「Ⅲ. 臨床栄養 病態編」「Ⅳ. 栄養管理のスキルアップ」の4章から構成されている。「栄養塾」の名のとおり、両先生から直接講義を聴いているかのような気分になる筆致である。教科書的な記載にとどまらず、随所に先生方の実体験から得られたTipsがちりばめられている。

「Ⅰ. 栄養管理に必要な基礎知識」では消化器の解剖生理やマクロ・ミクロ栄養素の機能・消化・吸収・代謝、侵襲や飢餓時の栄養代謝など、栄養管理を行う上でまず身につけておきたい知識が網羅されている。特に「水・電解質」や「TCA サイクル、ミトコンドリアと酸化的リン酸化」の章などはお2人のご専門に基づく“こだわり”の項と見受けられ、詳細かつわかりやすくまとめられている。

「Ⅱ. 臨床栄養 実践編」「Ⅲ. 臨床栄養 病態編」はそれぞれ栄養サポートの基礎知識と病態別のアプローチを扱っている。いずれも優れた内容であるのはもちろんだが、特にお勧めしたいのは「周術期」「上部消化管手術の退院後」の項である。優れた外科医である大村先生の豊富な臨床経験に基づく記載は

臨床現場で即座に役立つことに違いない。また腎臓内科医である濱田先生が担当された「腎疾患」の項では、Protein-energy wasting の診断基準や欧州臨床栄養代謝学会（ESPEN）による血液透析患者への栄養療法アルゴリズムなど、レベルアップをめざす栄養専門職なら必ず知っておきたい知識が余すところなく網羅されている。

さらに「Ⅳ. 栄養管理のスキルアップ」の章では、特殊病態栄養剤の組成、電解質異常、Refeeding 症候群などのトピックについてより深く掘り下げた内容が記載されている。例えば、栄養療法を行う上で最も避けなければならない致死合併症であるRefeeding 症候群についてはその歴史や代謝変動の機序にも触れられ、まさに塾で講義を受けている気にさせられる。

本書を特にお勧めしたいのは栄養サポートに関わる医師や研修医、さらには栄養サポートの専門職として高いレベルに到達したい管理栄養士、看護師、薬剤師、セラピスト、歯科衛生士などのコメディカルである。日ごろから繰り返し通読することによって、「なぜこのような栄養管理が必要なのか」を理解した上で適切な栄養サポートを実践することができる。ひとりで読むだけでなく、栄養部門や栄養サポートチームで1冊は備えておき、勉強会の資料として活用することも薦めたい。栄養管理の実践力の向上に大いに寄与するだろう。

（B5・頁288 2020年01月 定価：本体3,400円＋税 [ISBN978-4-260-04135-5] 医学書院刊）